

南葛SCの存在に 感じた大きな価値

—— 奇本さんが代表取締役社長を務めるバリユエンスホールディングス株式会社は、2021年3月から南葛SCのパートナーとしてクラブを支えています。

奇本 ささまざまな縁があり、南葛SCと関わるようになったところ、チームは東京都サッカーリーグ一部を戦っていました。Jリーグから数えるとJ7となるわけですが、高橋陽一先生や岩本義弘GMの熱意からは、将来に向けた大きな可能性を感じました。南葛SCは世界で唯一、『キャプテン翼』というアイコンを使えるクラブ。40年という歴史があり、「サッカー漫画と言えれば？」と聞かれたら、世界中の多くの人々が『キャプテン翼』を想起するでしょう。何をするにも世界中に情報を発信していかなければならないこの時代において、『キャプテン翼』という偉大な作品の世界をリアルで実現しようという発想には驚きましたし、その取り組みに大きな価値を感じました。

—— バリユエンスとして株式会社南葛SCの株式を取得し、奇本さんご自身もクラブの取締役を務めています。

奇本 東証マザーズ市場に上場して間もない経営者の私に、南葛SCの経営に参画する機会を与えてくださった高橋先生と岩本GMには大変感謝しています。私にお二人のような能力はありませんが、一方で私にしかない役割もあると思

っています。我々バリユエンスグループは世界各地に拠点を持っており、ブランド品のリユースをはじめ、サステナブルな事業を通してモノの価値を目利きする仕事を行ってきました。その経験や実績を生かすことで、『キャプテン翼』をさ

らに世界へ広めていく自信がありますし、南葛SCを世界で戦っていきけるクラブにしたいと考えています。高橋先生も最短期でのJリーグ昇格や世界進出といったビジョンをお持ちですし、同時に、ご自身が生まれ育った故郷への地域貢献も南

「南葛SCの経営者が語る」

さきもとししんすけ

奇本晋輔

1日でも早く夢を叶えるために

2022シーズン、南葛SCのユニフォームの胸にはメインパートナーの「Valuence」のロゴが掲出されている。

バリユエンスホールディングス株式会社の代表取締役社長であり、株式会社南葛SCの取締役でもある奇本晋輔氏に、『キャプテン翼』への思いや南葛SCとともに歩む未来について話を聞いた。

インタビュー：キャプテン翼マガジン Interview by CAPTAIN TSUBASA MAGAZINE
写真：野中崇史 Photo by Takashi NONAKA

バリユエンスグループCEO
バリユエンスホールディングス株式会社
代表取締役社長
株式会社南葛SC 取締役

Valuence

【バリユエンスとは？】

あらゆるステークホルダーへ人生を変える価値を提供し、一人ひとりが「らしく、生きる。」世界の実現を目指すバリユエンスホールディングス株式会社は、2007年に大阪のブランド品買取店からスタートし、奇本氏によって2011年に設立。7年後には東証マザーズ市場に上場。『キャプテン翼』のキャラクターとバリユエンスの海外展開という強みを掛け合わせたIP（知的財産）ビジネスを通じて、南葛SCのチーム強化に向けた収入源の確保、新たなビジネスモデル確立の準備を進めている。

葛SCを通じて行っていきたいという強い思いも抱かれています。高橋先生の夢が1年でも、1日でも早く実現するように、私も全力でサポートしていければと思っています。

大空翼の言葉が 自身に与えた影響

—— ガンバ大阪でプレーした経験を持つ奇本さんですから、少年時代から『キャプテン翼』は身近な存在だったのではないですか？

奇本 もちろんです（笑）。もつと上を目指したい、Jリーガーになりたいという思いを持たせてくれたのが『キャプテン翼』でした。サッカー少年としてはスカイラブハリケーンのような非現実的な部分にワクワクさせられましたし、一方で、子どもながらに人間味のあるストーリーに感銘を受けました。大空翼という優れたサッカー選手が周囲の仲間を鼓舞する姿、チーム全員で協力しながら勝利を追い求める姿からは、サッカーやスポーツの素晴らしさが伝わってきましたし、とても心に響きました。

—— 『キャプテン翼』から学んだことが、経営者である今の自分自身に生かされているような部分はありますか？

奇本 たくさんあります。サッカーの試合で勝利をつかむことと、ビジネスの世界で成長することはとても似通った部分があります。現役時代の私が特に意識していたのは、自分のプレーの出来よりも、

いかにチームとして機能するかどうかという点でした。例えば、チームの中にも、ただ優秀なストライカーがいても、周囲と連動したプレーができなければ、周囲との信頼関係を構築できていなければ、個人としてもチームとしても機能しません。経営も一緒です。どれだけ優秀な人材がいても、仕事を進める中で好き勝手やっているようでは、同僚からの信頼は得られません。現在の私は、サッカーで言うところの監督のような立場です。あるプロジェクトを成功させるために、どのような戦略を立て、どのようなメンバーを集め、グループとしてどれだけ一体感を持たせられるかどうか。これが私の一番の仕事ですし、このような発想は『キャプテン翼』から受けた影響がとて大きいですね。

——『キャプテン翼』の中で、寄本さんが好きなキャラクターやエピソードがあれば教えてください。

寄本 私は大空翼を自分自身に投影しながら生きてきましたので、一番好きなキャラクターは翼です。作品の中で最もグッときたのは、ワールドユース編で翼がサントーナに向けて発した「サッカーはひとつのボールを心と心でつなぐ友情スポーツなんだ」というセリフです。この言葉には、サッカーの在り方が述べられているだけでなく、人間としての生き方までもが含まれていると思うんです。仕事に取り組み中、さまざまなシーンで直面する葛藤や課題に対しても、翼のこの言葉が僕に歩むべき道を示してくれます

SHINSUKE SAKIMOTO

1982年4月14日生まれ、大阪府出身。関西大学第一高校卒業後、2001年にガンバ大阪へ加入。03年に退団し、JFLの佐川急便で1年間プレー。22歳で現役を退き、11年にブランド品のリユースなどを行う株式会社SOU（現バリュエンスホールディングス株式会社）を設立。18年に東証マザーズ市場に上場。元サッカー選手として初めての上場企業社長となった。



し、もはや『キャプテン翼』は僕にとって単なるサッカー漫画ではないんです(笑)。——いよいよ南葛SCの新たなシーズンが始まりました。ユニフォームの胸に「Valence」のロゴが入る今年、寄本さんにとってはG大阪時代のチームメイトである稲本潤一選手をはじめ、元日本代表の選手が数多く加入しました。

寄本 サッカーファンなら誰もが知る稲本選手、今野選手、関口選手、伊野波選手が加わり、J5相当としては最もタレント性に優れたクラブだと思っています。周囲から注目を集める分、対戦相手にとっては「南葛には絶対に勝つ」というモチベーションにつながるでしょうし、個人的にはこれまで以上に厳しいシーズンになると予想しています。その中で、南葛SCが目指すボールを大切に扱い、主導権を握るサッカーがどこまでピッチの上で表現できるかがカギ。私としても、今シーズンの目標であるJFL（日本フットボールリーグ）昇格を成し遂げるために精いっぱいサポートしていきます。もっとも、クラブとして勝利を追い求めつつも、選手たちにはサッカーの楽しさを存分に味わいながら1年間を過ごしてほしいですね。サッカーでも仕事でも、やはり「楽しんでる時」にこそ成果は出やすいもの。楽しむ気持ちが薄れた状態で勝ったとしても、組織としてはあまり価値のない勝利となってしまいます。だから選手たちには、サッカーの本質や魅力である楽しむという部分を第一に考えながら戦ってほしいと思います。